

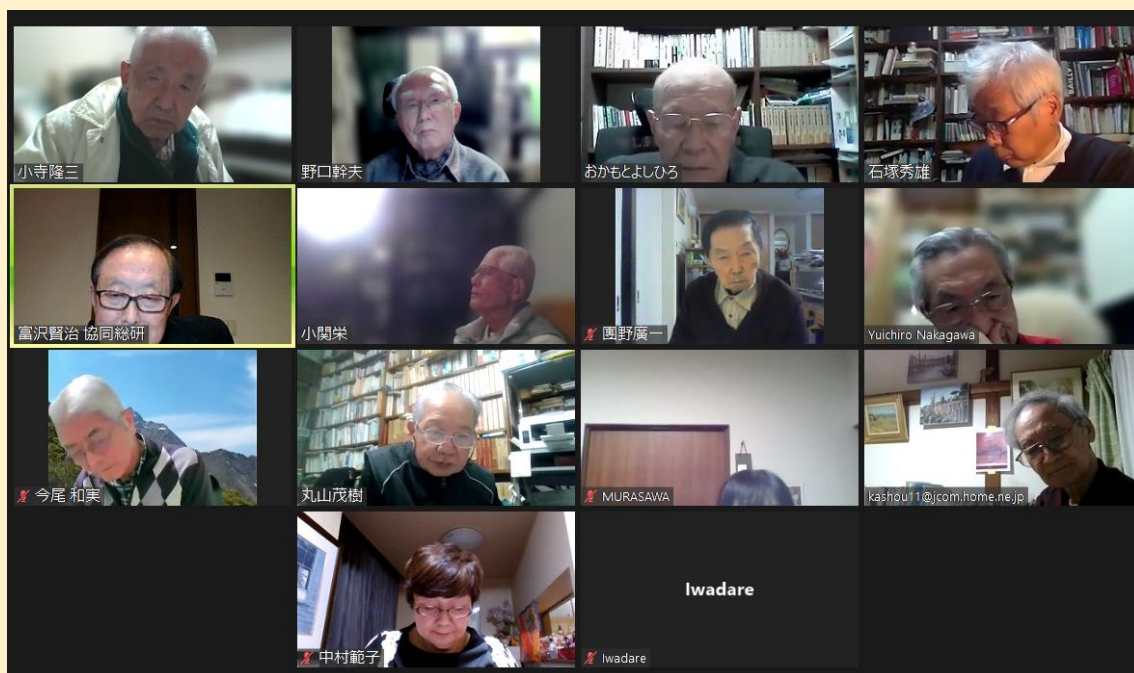
第17回ズーム三水会記録

日時：2022年11月16日（水）16時～18時

報告者：丸山茂樹様

テーマ：社会的連帯経済と国際ネットワーク GSEF（ジーセフ）

司会：石塚秀雄氏



参加者：14名

1 段目 小寺隆三 野口幹夫 岡本好廣 石塚秀雄

2 段目 富沢賢治 小関栄 團野廣一 中川雄一郎

3 段目 今尾和美 丸山茂樹 村澤澄子 齋藤嘉璋

4 段目 中村範子 岩垂弘

趣旨：新しい価値観とその指標をつくり出すことをめざす「社会的連帯経済」について紹介された。

2,013年のソウルでの GSEF 第 1 回大会の宣言から始まり、来年 5 月にアフリカ・セネガル国・ダカール市で開かれる GSEF 第 6 回大会までの歩みを紹介し、
気候変動、食料危機 戦争、紛争による飢餓、難民の大発生 貧富の格差 貧困の蔓延
などの今日的人類の危機は、草の根運動を基礎にした世界規模の社会的連帯経済の創造
なくしては解決しない。

第 1 回のソウル市がその役を果たしたように、基礎自治体による制度的バックアップが
欠かせない。といったこの運動の趣旨と現状を報告された。丸山さんはこの運動の日本
での理論と実践両面の第一人者である。

質疑と討議

日本での運動の特に自治体の状況について。京都市のように市の幹部が運動を支持し
ているところもあるが、議会を動かすことはまだむづかしい。

社会連帯経済という名称が一般論的でインパクトがない。若者をふくめて多くの人々に
アピールするための工夫が望ましい。

日本では時に農業との結びつきが大切ではないか。

国連の ILO を通じて日本政府にもこの運動の影響をあたえることが必要ではないか

動画リンク

<https://youtu.be/b6aJLN9C9CA>

資料添付

社会的連帯経済と国際ネットワーク GSEF(ジーセフ)

私の問題意識と本日の報告の主な内容(資料1、資料2をご参照下さい)

もう35年前のこと、1987年に森田邦彦、石見尚、中村尚司と共にP.エキンズ編著『生命系の経済学』を翻訳・出版したことがある。これは1984年と5年にロンドンとボンで開かれた、いわゆる主要先進国首脳会議に対して批判的な研究者や実践家が「もう1つの経済サミット」(The Other Economy Summit=TOES)を開いて約50本の論文・報告を発表した。この本は、その記録である。

論点は多岐わたるが、これまでの経済や政治政策を批判するにとどまらず、そのよって立つ政治経済用語や経済学の概念そのものがすでに時代を読み取ることも変える力を失っていることを簡明に示していると感じた。

本日の私の報告の問題意識は、新しい価値観とその指標をつくり出すこと。そのためにも、現在私に関わっている「社会的連帯経済」について、その一端を知っていただきたい事である。報告の内容としては、以下のことに触れたい。

- ① 現在、使われているGNP・GDPの問題点
- ② 修正された指標、または新しい別個の指標との並列の必要性
- ③ グローバル社会的経済フォーラム(GSEF)の動き
- ④ GSEFの他の国際ネットワーク
- ⑤ 来年5月にアフリカ・セネガル国・ダカール市で開かれるGSEF第6回大会

<参考文献>

- 富沢賢治『社会的経済セクターの分析』(岩波書店、1999年)
廣田裕之『社会的連帯経済入門』(集広舎、2016年)
藤井敦史、編著『社会的連帯経済』(彩流社、2022年)
藤井敦・原田幸喜・大高研道、編著『闘う社会的企業』(勁草書房、2013年)
J.ドウフルニ、J.L.モンソン編著、富沢賢治、他訳『社会的経済』(日本経済評論社、1995年)
C.ボルザガ、J.ドウフルニ編、内山哲郎・石塚秀雄・柳澤敏勝、訳『社会的企業』日本経済評論社、2004年)
津田直則『資本主義を超える経済体制と文明』(晃洋書房、2022年)
P.エキンズ編著、石見尚・中村尚司・丸山茂樹・森田邦彦、訳『生命系の経済学』(お茶の水書房、1987年)
井上良一『社会的連帯経済への道』(社会評論社、2021年)
丸山真人『人間の経済と資本の論理』(東京大学出版会、2022年)
丸山茂樹『共生と共歓の世界を創る』(社会評論社、2017年)

社会的・連带的経済とテリトリー。
インフォーマル経済から集団的で持続可能な地域への経済への移行



PROGRAMME PROVISOIRE

はじめに (イントロダクション)

第6回 社会的経済・連帯経済 (SSE) に関する世界フォーラム

2年に1度開催される Global Social Economy Forum (GSEF) は、2023年5月1日から6日まで、アフリカでは初めてセネガルのダカールで開催されます。世界各国から4500～5000人の人々が集まる予定です。このフォーラムは、大きく分けて2つの目的を持って企画されています。

- 第一の政治的目標：フォーラムには、世界中から選挙で選ばれた議員やリーダー、国際的な専門家や

開発機関が集まり、17の持続可能な開発目標を達成するために不可欠な、人と環境の尊重を中心としたこの新しい経済の推進を約束します。

- 2つ目の目的は、すべての大陸で実施されている経験と専門知識の交換に焦点を当てることです。自治体やSSEに関わるすべてのアクターが行ったイノベーションの成功例を、7つのテーマで紹介し

ます。と課題です。GSEF 2023 Dakarは、4つの主要イベントを中心に構成されます。

1. SSEキャラバン：西アフリカの350人以上の若者が、ここや他の場所からの若者の参加に対して、発見、ビジネス、雇用、社会的・連帯的起業の形式で答えを「与え、受け取る」機会です。
2. 2日間にわたるJeun'SSE Preforumは、この未来の経済への若者の参加を認め、すべての地域の若者のためのディーセント・ジョブと新しい機会を創出するものです。
3. SSEの構造および企業における女性の重要な役割に焦点を当てたFemm'SSE Preforumを1日で開催。
4. 7つのサブテーマに分かれたメインテーマのもと、3日間にわたる政治対話とテーマ別交流の場。

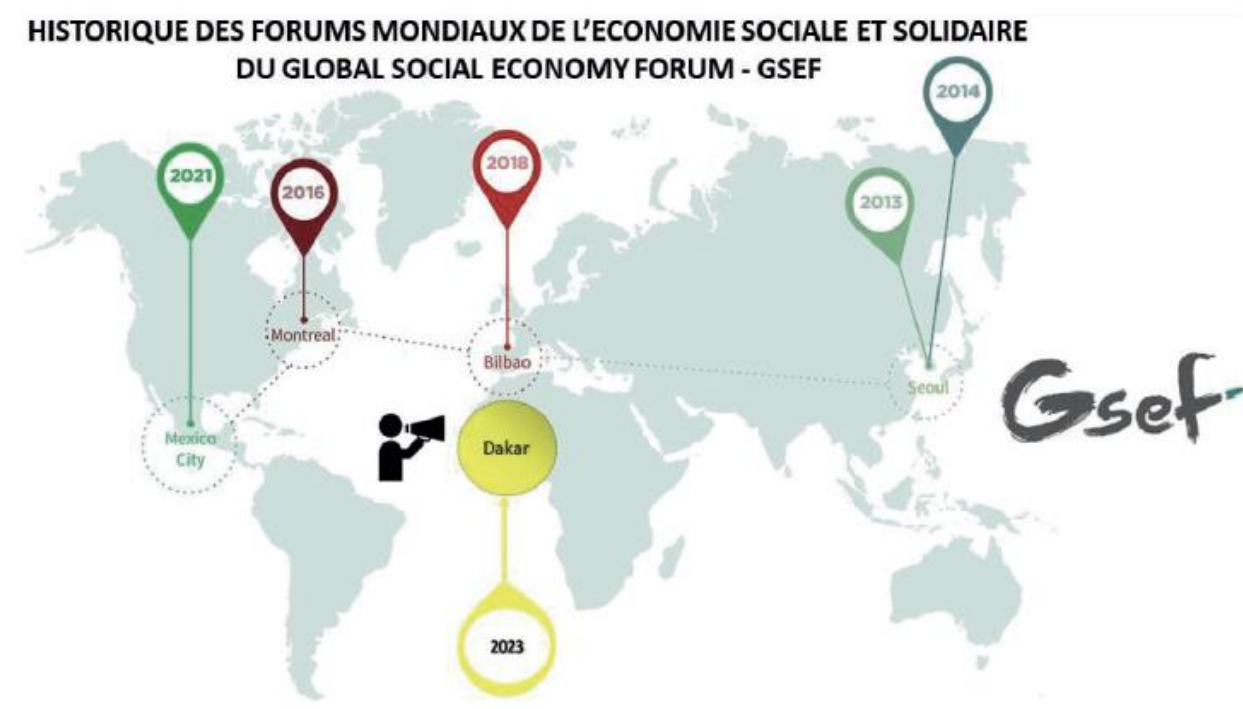
GSEF GLOBAL SSE FORUMS SDGsの達成に向けたSSEの役割の認識

- 会員都市と連携し、2年ごとに実施。
- SSEの政策立案者や専門家、国際機関、地方自治体、市民社会ネットワークが一堂に会する最も権威のある国際会議の一つ。

市民社会ネットワーク

- 相互学習、行動構築、知識交換のためのプラットフォーム。

グローバル・ソーシャル・エコノミー・フォーラム GSE の歴史



目次

p. 2

イントロダクション

第6回「社会的経済・連帯経済（SSE）に関する世界フォーラム」開催について

p. 4

SSEの才能 / 世界は私たちに開かれる

文化・芸術・経済村／アフリカのお土産広場

5月1日(月)から6日(土)まで

P6

Jeun'ESSプレフォーラム

ゲディアワエビーチ

5月1日（月）、2日（火）

P8

Femm'ESS preforum

グラン・テアトル・ナショナル

5月3日（水）

p. 10

社会的・連帯的経済に関する世界フォーラム GSEF DAKAR 2023

国立大劇場／黒人の文明博物館／エスプラナード／市庁舎

Esplanade / City Hall 5月4日(木)～6日(土)

4ページ

SSEの才能 / 世界は私たちに開かれた 文化芸術経済村 / アフリカのお土産広場

5月1日（月）～6日（土）

GSEF Dakar 2023の開催期間中は、スーベニア広場と市庁舎が文化イベントの中心になります。活動は、Place du SouvenirとDakar City Hallで並行して行われます。スヴニール・アフリケヌ広場では、以下のイベントが開催されます。

- 経済フェアでは、事前に選出された出展者を迎え、社会的・連帯的経済に関する製品の展示・販売を行います。ダカール市のサービスプロバイダーが設定した面積をベースに、出展者の多様性と製品・コンテンツの付加価値を保証するため、スタンドはオンラインで販売される予定です。日中は、マーケットでユーモラスなエンターテインメントや寸劇が企画されます。

- 午後6時から10時まで、工芸品の展示（アフリカ、世界）、アンビエントコンサート（ヒップホップ・ムバラク/ソフト）、フォーラムシアター、ファッションショー、地域交流、料理（食の発見）、映画、ドキュメンタリー、デジタルコンテンツの上映などのセッションで、文化パフォーマンスが企画されています。

国内外からアーティストを選出し、6日間のフォーラム期間中にパフォーマンスを行う予定です。2つの

パートに分かれた村の活動を収容できるスタンド、テント、パゴダの数の概要を把握するために、レイアウトプランを提案する予定です。



市庁舎



スーベニア広場

5ページ

MAIN TOPIC:

インフォーマル経済から集団的で持続可能な地域への経済への移行

テーマ1

若者と女性のためのディーセント・ジョブを創出する集団的で持続可能な経済の公共政策を共同構築する。

テーマ2

持続可能なブルーエコノミー、職人漁業の保護、新たな持続可能な雇用の創出、社会・環境保護

テーマ3

領土、集団、持続可能なグリーン経済、食糧自給とそのガバナンス

テーマ4

連帯と持続可能なデジタル経済・スマートテリトリー

テーマ5

領土のための集団的かつ持続可能な経済への資金調達

テーマ6

政策対話：国/地方政府、集団的で持続可能な地域経済のステークホルダー

テーマ7

社会・連帯経済と持続可能な開発、実践と研究のアーティキュレーション

2022年6月30日に締め切られた提案募集では、250件以上の提案が集まりました。

科学委員会は、80の交流ワークショップで構成される革新的な取り組みを選定しています。

5月1日（月）、2日（火）

Jeun 'ESSビーチ プレフォーラム in Guédiawaye

- キャラバンESS：プレフォーラムでは、10カ国350人の西アフリカの若いキャラバンナーを統合し、民族の連帯による統合を促進する活動に直接参加する予定です。SSEキャラバンは、まず29日（土）にカオラックに集合し、日曜日にダカールに合流する予定だ。セネガルをはじめ、世界各国から250名の若手参加者が参加する予定です。

途中、彼らの体験やSSEミーティングの様子を記録したビデオ・ドキュメンタリーも制作される予定です。

- SSE Youth Preforum: GSEFは、社会的連帯経済というグローバルなビジョンの中で、より公正で公平な世界のための社会的・経済的価値の創造者として、若者に重要な地位を与えています。Jeun'ESS Preforum」では、世界のいくつかの都市から若者が集まり、「テリトリーのための集団的で持続可能な起業家精神：ここと他の場所での若者からの包摂的な反応」をテーマに話し合います。

プログラムは、刺激的なプレゼンテーション、経験を共有するワークショップ、社会的・連帯的起業の機会フェアで構成されています。2日間、若者と、若者のためのSSEの課題と原則に特化した場所に設置されます。

- 持続可能な開発目標Village SDGs：様々な国や地域から、それぞれ1つのSDGsに焦点を当てたSSEソリューションと機会、および/または若者のための17のスタンドがあります。

1. スタンドのSDGsに対応した製品・サービスの展示
2. 機会の共有（ボランティア、インターンシップ、雇用、投資、協働）

- SSEに関するユース宣言が作成され、土曜日の世界フォーラムの閉会式で発表される予定です。

OBJECTIFS DE DÉVELOPPEMENT DURABLE



7 ページ

テーマ

テリトリーのための集団的で持続可能な起業家精神：国内外の若者のためのインクルージョン・レスポンス

	5月1日（月）		5月2日（火）
8:30～9:00	オープニング：スピーチ 歓迎、運営、組織 芸術的パフォーマンス	8:30～10:00	パネル 3
9:30 - 10:00	休憩		テーマ 4 デジタルエコノミー：若者の解放のベクトル イントロ SSE チャンピオン&エキスパートインタビュー
10:00 11:30	パネル 1 テーマ 1&6 テリトリーにおける若者のネットワークとプラットフォームの位置づけ イントロ SSE チャンピオン&エキスパートインタビュー	10:00 - 10:30	休憩
11:30 - 12:00	休憩	10:30～12:00	PANEL 3（第 2 部） 具体的な事例や TedX を中心とした交流、SSE 関係者の経験の共有。
12:00～13:30	PANEL 1（2 部） 具体的な事例や TedX を中心とした交流、SSE 関係者の経験の共有。 2 自主企画セッション	12:00 - 13:30	2 自主企画セッション 昼食
13:30～15:00	昼食		
15:00～16:30	パネル 2 テーマ 2 & 3 グリーン & ブルーエコノミー。	13:30～15:00	パネル 4 テーマ 5 資金調達：若者の取り組みを支援・育成する方法

	若者のための領土と持続可能な機会 イントロ SSE チャンピオン&エクスパートインタビュー		イントロ SSE チャンピオン&エクスパートインタビュー
16.30 - 17.00	休憩	15:00~15:30	休憩
17:00~18:30	PANEL 2 (第2部) 具体的な事例や TedX にフォーカスする SSE 関係者の交流と経験の共有 2 自主企画セッション	15:30~17h00 17:00~17:30 17:30~18:30	PANEL 4 (第2部) 具体的な事例や TedX に焦点を当てる SSE アクターの経験交流と共有 2 自主企画セッション 休憩 クロージング スピーチ レビュー&パースペクティブ 芸術的パフォーマンス
18:30~	夜間 自由時間	18:30~	クロージングの夕べ Jeun'ESS

8ページ

5月3日 (水)

プレフォーラム・ファミ」 ESSグラン・テアトル国立劇場Preforum Femm' ESS Grand Théâtre National

- ジェンダーとSSE：集团的かつ持続可能な地域経済における若い女性や女性の位置づけと役割

方法論／形式

1. 革新的なSSEアクションの女性チャンピオン7名と若い女性リーダー21名を特定：彼らのイニシアティブは文書化され、世代間対話（異なるセクター、年齢、認識、アプローチのアクター間の交流という形で）を中心にサブテーマで組織されるセッションをサポートします。
 2. 雇用と社会経済への高い潜在力を持つ21の革新的なSSEアクションを紹介。
若い女の子たちが中心となって、環境と制度に与える影響を、プロジェクト・フェアを通じて発表しています。
 3. 政策や専門家のプレナリーを通じて、ジェンダー主流化のための法律、戦略、プログラム、公共政策や国際開発課題におけるSSEの包含に関する政策対話のセグメントです。
 4. SSEセクターにおけるこれらのステークホルダーの介入戦略の一貫性と有効性を高めるため、マルチステークホルダー・モニタリング・プラットフォームを設置します。
- ジェンダーとSSEの宣言とロードマップが採択され、SSEの課題と、我々の国家における食糧、経済、金融の主権を確保するための重要性、そしてこのプロセスにおける女性の中心的役割が再確認されました。また、土曜日に開催されるワールドフォーラムの最終クロージングでも発表される予定です。



9ページ

テーマ

女性の社会的・経済的エンパワーメントと持続可能な公共政策の地域化

8:00～8:30 参加者の歓迎と設置

8:30～9:45 オープニングセレモニー

歓迎、機能、組織、課題の紹介

チャンピオン発表会（チャンピオンとヤングガールリーダーのビデオ投影）

課題発表：テリトリーの集団経済と持続可能な経済における少女と女性の位置づけと役割

9:45～10:00 休憩

10:00～11:15

パネル1：少女と女性のためのディーセント・ジョブを創出する集団的かつ持続可能な経済のための公共政策の共同構築

パネル2：持続可能なブルーエコノミー、職人漁業の保護、新たな持続可能な雇用の創出、社会・環境保護

パネル3：地域的・集団的・持続可能なグリーン経済、食料自給率およびそのガバナンス

11:15～11:45 村の訪問、交流、休憩

11:45～13:00

パネル4：テリトリーのための集合的かつ持続可能な経済への資金調達

パネル5：デジタル、連帯、持続可能な経済とインテリジェントテリトリー

パネル6：社会的経済・連帯経済と持続可能な開発、実践と研究のアーティキュレーション

13:00～14:30 昼食

14.30～16.00

政策区分：国内、地域、国際開発戦略、プログラム、アジェンダ（アジェンダ2030、アジェンダ2063、国家政策と制度的枠組み）におけるSSEとジェンダー主流化の検討に関するラウンドテーブル。

パネリスト UN Women, UNDP, アフリカ連合委員会, AfDB, IDB.

16:00～16:15 休憩

16:15～ 17:15 7 自主企画セッション

17:15～午後17:30 休憩

17:30～18:30 7 自主企画セッション

18:30～19:30 トランジションホテル

Femm'SSE evening / Place du Souvenir Africain (アフリカのお土産広場)

10ページ

社会的・連帯的経済に関する世界フォーラム GSEF DAKAR 2023

国立大劇場／黒人文明博物館／エスプラナード／市庁舎

5月4日（木）～6日（土）

3日間にわたる政治討論とテーマ別交流会。

全体会議・政治対話

- オープニングとクロージングセッション。
- 市長パネル、大臣パネル
- テーマ別全体会議

ワークショップ／経験や実践を交換するための自主運営ワークショップ

GSEFの公募により選ばれた80の交流セッション（個人または自主運営）、3～4人のパネリストによる1時間30分～2時間のセッションで、5大陸の取り組みや実践を紹介

経験やイノベーションの展示・見学

5月1日から6日まで、SSE団体、地方自治体、ドナーなど140のブースで、SDGs達成に向けたSSEアクターの経験や成果を紹介する常設展を開催します。

文化・社会経済活動

夜8時から深夜0時までの文化活動（コンサート、料理、ファッション、フォークロア、レセプション、ネットワーキングイブニング・・・）の「ギブアンドテイク」と、SSE製品をアピールする120の展示・販売ブースによるマーケットプレイスです。

SSEグローバルフォーラムDAKARの最終政治宣言とロードマップ

2023年は、閉会式で採択・発表される予定です。



黒色文明博物館

グラン・テアトル国立劇場

11ページ

テーマ インフォーマル経済から集団的で持続可能な地域への経済への移行

	5月4日 (木)		5月5日 (金)		5月6日 (土)	
9:00 - 10:30 (1h 30)	オープニング&ウェルカムスピーチ 関係者のインタビュー イベント発表 テーマ別プレゼンテーション (場面設定、課題、問題点など)		政治プレナリー テーマ6：市長と地方公共団体		プレナリーエキスパート 国際機関	
10:30 - 11:00	休憩		休憩		休憩	
11:00 ~12:30 (1:30)	政治プレナリー テーマ1：大臣		14 セッション とワーク ショップ	テーマ5 資金調達	14 セッションと ワークショップ	テーマ7. 研究内容
12:30 - 14:30	昼食		昼食		昼食	
14:30 - 16:00 (1h 30)	14 セッショ ンとワークシ ョップ	テーマ2: ブルーエコノ ミー	14 セッション とワークシ ョップ	テーマ4. デジタルエ コノミー	返還と宣言+ビデオクリップ： ユース SSE プレフォーラム Women's SSE Preforum 7つのテーマから生まれる主な 要素のレポート フォーラム最終宣言	
16:00 ~16:30	休憩		休憩		休憩	
16:30 - 18:00 (1h 30)	14 セッショ ンとワークシ ョップ	テーマ3. グリーンエコノ ミー	14 セッション とワークシ ョップ	GSEF 総会 市役所	クロージング 政治的コミットメント	
18:00 ~19:00						

オープニング・イブニング リメンブランス・スクエア	文化のタベ リメンブランス・スクエア	クロージングのタベ お土産売り場
------------------------------	-----------------------	---------------------

12ページ

ダカールの中心部にある5つの場所

- ゲディアウェイエ・ビーチ Plage de Guédiawaye
- アフリカ土産広場 Place du Souvenir Africain
- グラン・テアトル・ナショナル Grand Théâtre National
- 黒人の文明博物館 Musée des Civilisations Noires
- 市役所 Hôtel de Ville



社会的連帯経済と 国際ネットワークGSEF

丸山茂樹

(社会的連帯経済を推進する会・コーディネーター)

はじめに

自己紹介

所属：社会的連帯経済を推進する会

この会は、後に詳しく述べますが2013年11月に韓国・ソウルで開かれた「グローバル社会的経済フォーラム：以下『GSEF』」で採択された「ソウル宣言」を支持する人々約30人が呼びかけ人となってつくられた「ソウル宣言の会」を発展させて組織された。

会の代表：若森資朗さん（元パルシステム生協連合会の理事長）

副代表：白井和宏さん（生活クラブ生協連合会のシンクタンク代表）

メンバー：各分野で市民運動や市民による事業活動をしている人々及び日本協同組合学会や社会的企業研究会などに集う学者・研究者の方々

目次

1. 「ソウル宣言」の内容と意義～社会的連帯経済の重要性とアジア発であること
2. 今日の危機は、世界的規模で捉えることなしに未来を創造できない
3. 今日の危機は、草の根の運動を基礎にした社会的連帯経済の創造なしに解決はない
4. 社会的連帯経済は、市民社会の運動と事業およびこれを支持する基礎自治体や国際組織の様々なレベルでの協力、協同によって発展する

5. 2013年 GSEF 第1回大会 韓国・ソウル大会～ソウル宣言の採択
6. 2014年 GSEF 第2回大会 韓国・ソウル大会～GSEF 憲章の採択
7. 2016年 GSEF 第3回大会 カナダ・モントリオール大会～連帯経済との結合
8. 2018年 GSEF 第4回大会 スペイン・ビルバオ大会～諸国際組織との連携
9. 2021年 GSEF 第5回大会 メキシコ・メキシコシティ大会～地域的・国際的な連携
10. 2023年 GSEF 第6回大会 セネガル・ダカール大会～者と女性が活躍する

11. おわりに～コロナ禍とロシア侵略戦争の中でこそ反戦平和・社会的連帯経済を！

1. 「ソウル宣言」の内容と意義①

2013年11月に韓国・ソウルで開かれた「第1回GSEF」で採択された「ソウル宣言」は、新しい社会運動の登場とこれを国際規模で推進しようとするものである。

これまでの社会運動は、政治運動や労働運動などによって人々の要求を実現しようとするものであった。しかし、「社会的経済」という人々が人々のために自ら民主的な運営によって創り出す経済を通じて、人々の暮らしと仕事を実現しようとするものである。またこの活動を支持する基礎自治体と連携することを通じて、地域社会に安定的に普及させようというものである。

(全文は『「社会的経済」って何?』(社会評論社、2015年2月刊700円)に収録。)

第1回の国際フォーラムへの参加都市:8市

参加団体:9団体

1. 「ソウル宣言」の内容と意義②

「ソウル宣言」の要点。

1. 世界の危機が社会的経済を必要としている
2. 何故社会的経済が重要であるか
3. グローバルなネットワークを目指そう
4. すぐ実践できる 10 項目の提案

「社会的経済は信頼と協同を基礎にして効率性と平衡性そして持続可能性を同時に立っていしようにとする。協同組合、ひとびとが住む地域の企業（マウル=村や町の企業）、社会的企業、（営利本位の企業を除外）、信用組合とマイクロ金融、そして李営利団体などが社会的経済を構成している。もちろん慈善団体と社会的投資部門も非常に重要である。このような社会的経済こそが公共部門と市場経済との調和をつくり出し、現在のグローバルな危機を克服することができるのだ。」（「ソウル宣言」の一部）

朴元淳ソウル市長（ソウル宣言の提唱者）

参与連帯(韓国を代表する市民団体)

美しい財団（市民団体の育成、市民運動の人材養成、市民事業のモデルの実践）

希望製作所（シンクタンク&市民運動の人材養成、市民事業のコンサル）

ソウル市長

マーガレット・メンデル教授（ソウル宣言の原案作成者）

カナダ、モントリオール市 カール・ポランニー政治経済研究所長

2. 今日の危機は、世界的規模で捉えることなしに平和と尊厳のある未来を創造できない

1. ウクライナ・ロシアの戦争の悲惨

当事国のみならず、世界的な悲劇

2. 貧富の格差の一層の進行 (2022年5月23日 ダボス会議=スイスで開かれている世界経済フォーラムでイギリスのNGOオックスファムが発表)

●保有資産 10 億ドル超の億万長者が 2 年前に比べて 573 人増の 2668 人

●保有資産は 1625 兆⑥000 億円。上位 10 人の大富豪だけで、世界の低位40%にあたる 31 億人よりも多く資産を保有している

●コロナ禍の過去 2 年間の資産増加額はそれ以前の 23 年間に匹敵

●原油、天然ガスなどの値上がりにより、エネルギー業界は 45%の増収。P B やシェルなど石油大手は総額 820 億ドルの利益を得た

戦争を止めること 恒久的な富裕税の導入 累進課税の世界的な強化 社会保障の充実

これ等を一国規模のみでなく**世界規模で行う**ことなしに未来はない。

3. 今日の危機は、草の根の運動を基礎にした社会的連帯経済の創造なしには解決しない

今日の危機とは何か？

気候変動による水害、干ばつ、

食料危機、

環境破壊の危機。

戦争、紛争による飢餓、難民の大発生。

貧富の格差による絶望的な貧困の蔓延。

これらを解決に導くのは、国家や市場経済のみでなく、市民社会の1人1人が自覚的に活動する草の根運動を基礎にした世界規模の社会的連帯経済の創造である。

4. 社会的連帯経済と基礎自治体の連携 による発展①

1 GSEF（グローバル社会的経済フォーラム）の特徴

市民社会において人々が組織した様々な経済主体ばかりでなく、
基礎自治体（地方政府）もまた会員として参画している事である。

「2014年第2回ソウル大会」で採択された『GSEF 憲章』に「正会員は、自治体会員と社会的経済ネットワーク会員により構成され、総会での議決権と被議決権をもつ」と明記されている。（『「社会的経済って」何？』社会評論社、刊）に全文収録されている）

4. 社会的連帯経済と基礎自治体の連携による発展②

2 自治体による「社会的経済に関する条例」の制定

GSEF の提唱者であるソウル市長の朴元淳氏は、この社会運動と理念と戦略が一時的なものに終わることなく発展させるためには、2つの側面、すなわち

- ・草の根の参加型民主主義に基づく活動と、
- ・基礎自治体による制度的バックアップ

が欠かせないと考えた。」

ソウル特別市社会的経済基本条例（2014年5月に制定）

この条例は、「条例の目的と基本理念」「社会的経済の社会的価値」「社会的企業の定義」「社会的経済の基本原則」などを定めている。

「ソウル宣言」の原案を起草したカナダ・ケベック州のモンリオールにあるコンコルディア大学のカール・ポランニー政治経済研究所長のマーガレット・メンデル教授はケベック州の「社会的経済法」（2013年制定）に重要な役割を果たした。

（両自治体の条例全文は、丸山茂樹著『共生と共歓の世界を創るーグローバルな社会的連帯経済をめざして』（社会評論社、2017年刊）に全文収録されている）

4. 社会的連帯経済と基礎自治体の連携による発展③

ソウル市が作成した冊子『ソウルの社会的経済開発の現状』によると、条例制定後、ソウルの社会的経済組織及びその発展のためのネットワークは飛躍的に発展した。具体的には協同組合が 2 2 6 7 組合、社会的企業が 433 企業、マウル企業が 119 組織された。

ソウル市内には 25 の自治区があるが社会的経済を発展させるための組織は以下の通り
(2015 年現在)

- 社会的経済生態系 Group 6 地区
- 社会的経済協議会 20 地区
- 社会的経済統合サポートセンター 8 地区
- 自治区の社会的経済サポートセンター 3 地区
- 地域自治体のリハビリセンター 24 地区
- 社会的経済ゾーン（予備） 6 地区

5. GSEF2013 ソウル大会

GSEF 2013 ソウル大会の基本的意義：「**ソウル宣言**」を採択し、10項目の直ぐにも実行できる具体的提案を呼びかけたことである。参加した自治体と組織は、下記のとおりである。しかし、参加者が「ソウル宣言」に異をとることはなかったが、必ずしも積極的に支持したとは言えない。

(参加都市) ボローニャ、エミリア・ロマーナ州（イタリア）、モントリオール市（カナダ）、ケベック州（カナダ）、ケソン市（フィリピン）、ソウル市（韓国）、横浜市、京都市（日本）。

(参加団体) アジア・ベンチャーフィロソフィー・ネットワーク（シンガポール）、シャントイエ（カナダ）、グループ SOS、HKCSSS（香港）、K2 インターナショナル・グループ（日本）、レガ・コープ・ボローニャ（イタリア）、レガコープ・エミリアロマーナ（イタリア）、ローカリティ（英国）、ソーシャル・トレーダーズ（オーストラリア）、ソウル社会的経済センター（韓国）

6. 第2回 GSEF2014 ソウル大会

2014年に再びソウルで11月17日～19日に開催された。

GSEF憲章が採択されて、会員規定、財政規定、組織体制が整えられて、正式の国際組織として発足した。

日本からは労働者協同組合連合会から50名、ソウル宣言の会から50名、合計100名が参加した。

私（丸山茂樹）はこの大会を締めくくる4人のスピーカーの1人に指名されて、大会と憲章の意義とアジア発の国際ネットワークの歴史的意味について発言した。

参加したのは下記の通り。

（公的機関） 13か国 17機関

（民間団体） 17か国 43団体

（国際機関） 国連:社会開発研究所 地域経済と雇用開発
ILO 社会的連帯経済アカデミー

7. 第3回GSEF2016 モントリオール大会

舞台を、カナダ・ケベック州のモントリオール市に移して一層と大きな規模で開催された。

この大会の大きな特徴は、「社会的経済」と「連帯経済」の相互関係であった。

このことと関連して、「RIPESS 社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク」など、**他の国際ネットワークとの関係**が深まった。

国連などの国際機関との関係も大切なテーマとなった。

- ・協同組合や共済制度、NPO など既に法律が整えられ制度化されている社会的経済もまだ・法的保護のない草の根運動を基盤にした連帯経済を担う社会変革運動も共に仲間であり、組織的にも運動的にも手を取り合ってゆくことを公式に確認した。
- ・相互の組織への参加、イベントや会議への相互参加を密にすることを確認した。
- ・自治体首長など地方政府関係者約 30 名がリレー・トークで、世界の多様性と運動の多様性にもかかわらず、参加民主主義の社会的連帯経済が必要不可欠であることを浮き彫りにした。

大会の冒頭に先住民代表のあいさつが彼らの言葉で語られた。

先住民と女性と若い世代への支持と支援が必要であると強調された

8. 第4回 GSEF2018 ビルバオ大会

ヨーロッパ・スペインのバスク州ビルバオで開かれた。

スペインには世界的に有名なモンドラゴン協同組合企業グループがあるが、最も古く中核的な労働者協同組合であった家電製品メーカー・ファゴールが2013年11月に倒産している。

しかし今も他の労働者生産組合約250組合、8万5000人は健在である。

スペインにはバスク州以外にも数多くの協同組合や市民バンク、市民の共有空間（コモンズ）などが組織されており**社会的連帯経済の先進国**とも言われている。

ビルバオ大会の特徴の一つは、ファゴールの倒産に象徴される**厳しい企業競争、国際競争の嵐の中で、どのようにして社会的連帯経済を強めるか**、であった。

結論は社会的経済、連帯経済、自治体（地方政府）の連携・ネットワークの一層の強化であった。

参加者は1800人を超え、過去最高となった。

9. 第5回 GSEF2021 メキシコシティ大会

2020年に開かれる予定であったが、コロナ禍の為に延期され2021年10月4～8日、中南米に位置するメキシコのメキシコシティで開催された。コロナ禍の下にあって、現地参加とオンライン参加が同時に行われた。

「社会的連帯経済を推進する会・日本は現地参加を断念し、総会などにオンライン参加した。
メキシコ大会のメインテーマ：「**地方自治体と社会的経済:グリーンでインクルッシブな経済を共
の創造する**」

サブテーマは下記：それぞれについてたくさんの分科会、討論会、講演が行われた。

- 包括的なコミュニティの構築と再構築
- 社会的連帯経済のための教育・学習・研究
- SSEによる生態系の変革への貢献
- 多様で革新的なソーシャル・ファイナンスの仕組みの推進

参加者は過去最高の50カ国以上、5700人が参加した。またグローバル・バーチャルフォーラムも開催され、15000人が登録し、100カ国以上からの参加があった。ウェブサイト、ソーシャルメディアを通じた大会参加所の総計は16万3000人に達したと報告されている。

社会的企業、SSE関係者、地方自治体や国の関係者の協力によって、COVIT-19との闘いの最中であったが「勝利した大会」と評価されている。

10. 第6回 GSEF2023 ダカール大会へ①

国際組織の国際連帯の新しい門出

～「インターナショナル・コーリジョン・フォー・ソシアル&ソリダリティ・エコノミー」
(ICSSE)

2021年9月28日に「社会的連帯経済の国際的連携のための立ち上げイベント」が開催された。

以下の組織が参加：

- 国際協同組合同盟 (ICA)
- グローバル社会的経済フォーラム (GSEF)
- 社会的連帯経済国際フォーラム (SSEIF)
- 国際共済協会 (AIM)
- アフリカに行く。

10. 第6回 GSEF2023 ダカール大会へ②

●現地の受け入れ態勢

「この大会は GSEF がダカール市と社会的連帯経済を推進する活動家と自治体のネットワーク（RACTES）が、セネガルマイクロファイナンス・社会的連帯経済省と共同で開催するものです。この選択は、ダカール市が社会的連帯経済の分野で実施している活動だけでなく、セネガル政府が社会的連帯経済を支援・促進するエコシステムを開発するため実施している積極的な政策のビジョンを反映し、その関連性を確認するものです。」

●GSEF についての説明

「GSEF は社会的連帯経済（SSE）に関する最も権威ある最大の会議の 1 つで、地方・中央政府から市民社会組織とネットワーク、国際組織、学術研究機関及び民間セクターの活動家まで、SSE 分野のすべての関係者が集まり、より包摂的で公平、連帯に基づく人間中心の世界の構築に向けて実践、経験、政策、ビジョンを共有する目的で 2 年ごとに開催されています。GSEF は SSE を推進するための国際的なネットワークです。」

おわりに ～グローバルな視野と、ローカルな実践と

私は 2013 年のソウルのフォーラム以来、約 9 年間、この活動に関わってきた。

この運動の提唱者である 2 人の人物、ソウル市長だった朴元淳氏と基本的理念を提唱したコンコルディア大学カール・ポランニー研究所のマーガレット・メンデル教授について、また彼らのアイデアのバックボーンになっていたと思われる、思想家であるカール・ポランニーやアントニオ・グラムシについても深く考える必要性を感じている。

朴元淳氏は 2020 年 7 月 8 日に「セクハラ批判告発」を受けた直後に自死している。朴元淳市長の後に市長となった保守派の呉世勲氏はソウル市に GSEF 事務局を置くことを止めたため、現在のところ GSEF は事務局受け入れを表明しているフランスのボルドーへの移転準備を行っている。

Think Globally Act Locally by SSE

「社会的経済」という言葉について、研究者の間では長い間、語られ、研究されて来たが、社会運動として、また政治的な実践課題となってきたのはごく近年である。しかし今日では急速に普及し、色々な場で語られるようになったという印象を受けている。

- UN会的連帯経済の主要な構成要素としての協同組合」と題するポジションペーパーを採択した。
 - ICA(国際協同組合同盟)が 2021 年 12 月 1~3 日に韓国・ソウル市で「世界協同組合大会」を開催し、「協同組合のアイデンティティを深める」をテーマに、討論を行った。
 - ILO(国際労働機関)は、2022 年 3 月 31 日に報告書「ディーセント・ワークと社会的連帯経済 (SSE)」を発表した。
 - ILO(国際労働機関)は、5 月から 6 月 11 日にかけて開催される第 110 回 ILO総会において「ディーセント・ワークと SSE」が一般討論の議題となると発表した。
 - JCA(日本協同組合連携機構)は、2018 年 4 月 1 日に「協同組合の健全な発展と持続可能な地域のよりよい暮らし・仕事づくりを目的に、協同組合を横断した我が国唯一の常設の法人組織として発足した。
- その活動の一環として、ICA,GSEF、ILO などの国際組織の労働者共済生活協同組合連合会、こくみん共済 COOP<全労災>、全国労働金庫協会、全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、家の光協会、日本農業新聞、全国厚生農業協同組合連合会、農協観光、全国農林漁業団体共済会、全国大学生生活協同組合連合会、全国医療福祉生活協同組合連合会、日本コープ共済生活協同組合連合会、日本文化厚生農業協同組合連合会。今日の危機は、何度も触れたように世界的な規模で原因があり、結果がある。具体的な実践は自分の住む地域と仕事の間から具体的かつ地道に行わなければならない。また自治体を動かし条例をつくり、持続可能な暮らしと仕事の間をつくるのが肝要である。しかし、そのためには世界の仲間の知恵と経験、国際的な到達目標への接近なしに達成することはできない。

おわり

ご清聴ありがとうございました